

## 生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造

いこま棚田クラブ代表 出口 育宏

いこま棚田クラブの自然環境保全活動にご支援を頂き有難うございます。

お陰さまで活動開始 15 周年を迎えます。2003 年春、生駒市西畑町の休耕棚田が草茫々で困っている。当地は奈良時代から続く歴史でも由緒ある「暗越え奈良街道」に面しており、この景観を後世に残したいがパワー不足 (18 世帯 80 名) で如何ともしがたく草刈りボランティアを探しているとの声がシニア自然大学に入って、おっとり刀で駆けつけたのが始まりである。私達シニア自然大学OBは自然観察やイベントの出来る拠点が欲しかったので 2003 年 10 月「いこま棚田クラブ」を設立して、地元の「西畑棚田を守る会」と協働で活動を開始した。

活動のテーマを「棚田・里山の再生と創造」と決めて、景観整備 (生物多様性の保全)、援農 (農家のお助けマン)、棚田、里山体験会 (自然環境教育)、自主活動の 4 本柱で今日に至っている。

ボランティア (シニア自然大学の講座修了生が中心) のパワーの凄さに感心している。雨が降っても、風が吹いても、カンカン照りの真夏も、木枯らし吹く真冬も休むことなく毎週 1 回以上棚田を訪れ作業に明け暮れる。イベントや植物観察をして「楽しむ」「観る」人が多い中で、広大 (10ha) な棚田、里山

が整備されて美しく維持されているのは、地域住民や行政・環境関連団体から賞賛されるゆえんである。長く続けてきて思うのは活動の評価を参加者の数、イベントの数、活動資金の多寡などで評価しがちであり、それを売り物にしたくなるが、本当はどれだけの素晴らしい人材が集まってきて、自然環境を維持できるかということこそ大切と思っている。

今年も恒例の「西畑の大とんど」が 1 月 8 日 (準備) 1 月 9 日 (本番) で 1 年が始まった。活動 15 周年は素晴らしいが地元民も棚田クラブのメンバーもそれだけ高齢化が進んでいる。これからの課題は、如何にしてこの活動を世間に広めて、多くの共感者を集めるかにかかっている。

シニア自然大学校のみなさんも友人、知人に身近にこんな活動をしているところがあることを宣伝していただきたい。



2017 年 成人の日の西畑大とんど

## 大和高原での山野草保全活動紹介

里山の山野草を守る会代表 石垣 洋治 (シ12)

私たちが活動しているフィールドは、奈良県桜井市の三谷地区にある。公共交通機関もなく、標高 400~500m の中山間地にあつて、大和川源流にも近い。地理的な特徴もあつて、外来種の侵入を遅らせたり、山野草が温存されてきた地域であった。また農業改良事業の基盤整備も行われてこなかったため、昔ながらの水路や、湿地が維持されてきたので、植生の豊かさが維持されてきた。

このようなフィールドでも山野草の生息地である山林やクロガリ (農地に接した 3~5m の法面) での除伐採が行き届かない状態を放置すれば、間違いなく山野草が姿を消してしまうので、これ以上の減少を食い止め、復旧を図る地道な活動が欠かせない。荒廃は進むが、絶滅しそうな山野草に手を加えることにより維持できることがわかってきた。4 つの班で分担し、12 のフィールド (合計約 1ha) で、年間を通しての定点観測と経時変化の記録を残しながら、その保全活動が中心的な活動内容である。自然との闘いでもあり、自然を愛する心と体力が要求される。

2008 年 3 月に発足した当会は 9 年目を迎え、67 名のシニア男女会員によるサークルとして持続発展してきた。今年は、特にイノシシ被害が多発。ヤマユリの球根などがずいぶん荒らされて、防獣ネットやメッシュワイヤーの設置などに忙殺された一年となった。

〔トピックスとして〕 2015 年秋に、我々のフィールドが環境省の「重要里地里山 500 選」の一つに選定された。放置され荒廃がすすむ全国の里山の中にあつて、継承すべき里山として優れた里山を顕彰しようというものである。この荣誉に甘んじることなく、我々の地道な努力は続いていく。



標識棒設置作業



代表花のひとつ ササユリ